

# 野迫川村一貫校



贈呈理由

自然土壌を活用し新たな発想の蓄熱方式の採用により負荷平準化を実現



野迫川村立中学校・小学校・保育所

野迫川村(のせがわむら)村立中学校・保育所は、既存の小学校の隣接地に移転・新築し、小学校舎と渡り廊下で結ぶことにより、その名の通り保育所から中学校までの一貫校舎として平成27年10月より運営が始まっている。

同村は奈良県の西南端に位置し、北は古くからの信仰の山「高野山」、南は高野龍神国定公園の山々によって囲まれ、世界文化遺産・熊野古道が村内を通る風光明媚な土地柄。また火の守護神と言われる日本三大荒神のひとつ「立里(たてり)荒神」があることでも知られている。標高が高く、冬場は厳しい冷え込みになるため、校舎の建築にあたっては、内外装に奈良県産木材を豊富に使うことで、温かみを感じさせるものとすると同時に、快適な学習環境を確保するための暖房設備については、さまざまな方式の検討が行われた。

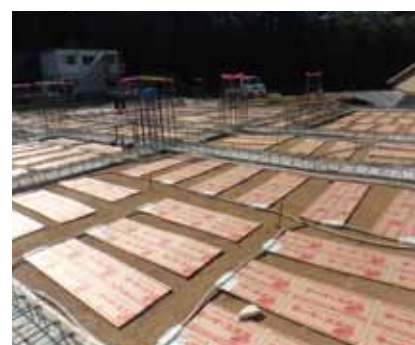
## 立地環境に配慮した蓄熱システムを採用

検討に当たっては自然環境への影響を配慮しつつ、児童・生徒の健康面、学習環境の快適性、エネルギーコストの経済性を考慮し、対流・騒音のない「土壌蓄熱式床暖房システム」が採用された。

このシステムは、建物の基礎工事時に床スラブ下の土中に電熱パネルを埋設。電気料金の安い夜間電力を利用して、土壌に蓄熱層を形成し、昼間に蓄熱暖房を行う。夜間地中に蓄えられた熱は、躯体を通じて建物全体の暖房として利用されており、外気温の変化があっても24時間建物内の室温をほぼ一定に保つことができる。

一方、野迫川村の夏は、暑い関西に在りながら十分に涼しく、空調機を使う必要もない気候に恵まれているため、このシステムの導入により、この建物を使う園児や中学生には、一年を通じて良好な

環境が提供されている。



施工写真

## 野迫川村一貫校

所在地:奈良県吉野郡野迫川村北股51  
 建築設計:(株)ニュージェック  
 建築施工:(株)森下組  
 蓄熱設備設計:(株)ニュージェック  
 蓄熱設備施工:松田電気工業(株)  
 延床面積:701㎡  
 竣工:2015年(新設)

■蓄熱設備概要  
 顕熱蓄熱式電気床暖房 89.8kW(サーマエンジニアリング)  
 敷設面積:474㎡